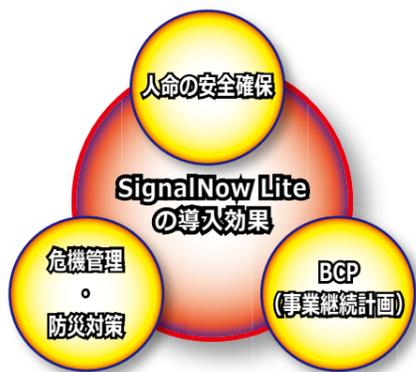


「高度利用者向け」緊急地震速報専用通報装置 SignalNow Lite[®]

SignalNow Lite は発生した地震の情報をいち早く受信し、震度や大きな揺れが来るまでの時間を予報できる、気象庁の「緊急地震速報（警報・予報）」を利用した通報システムです。

気象庁の津波電文にも対応し、津波警報（2種）・注意報・予報も通報することができます。

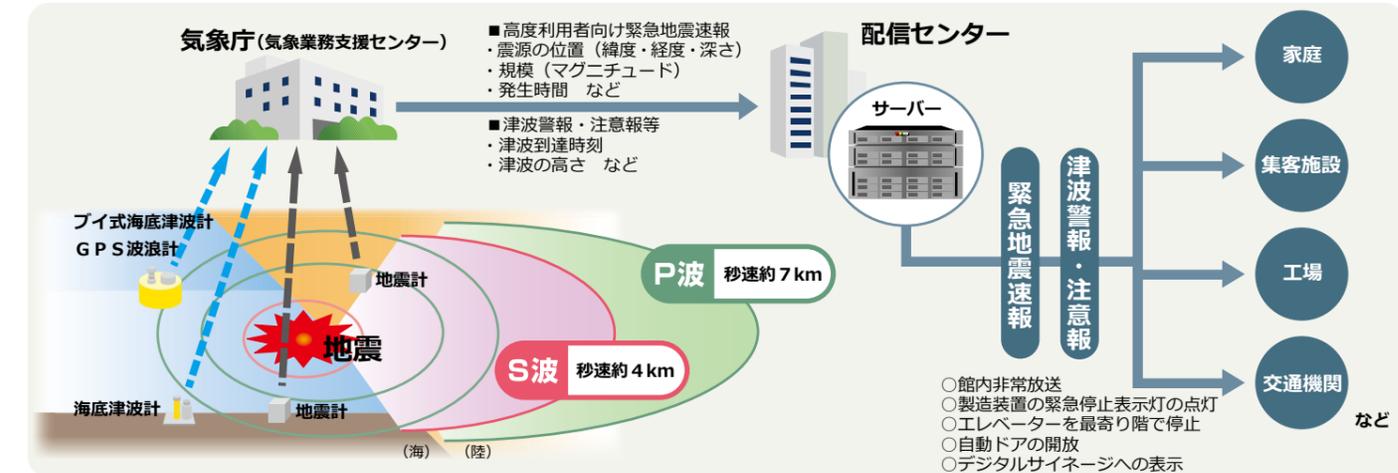


緊急地震速報／津波警報・注意報・予報とは

「緊急地震速報」は地震の発生直後に震源に近い地震計で捉えた観測データを解析し、震源と地震の規模（マグニチュード）を直ちに推定します。その後、推定した結果に基づいて地震波の特性であるP波とS波の広がる速度差を利用して、各地での地震の到達時刻や震度を予想し、可能な限り早く知らせる気象庁からの情報です。

「津波警報・注意報」は地震発生直後に津波による災害の発生が予想される時に、「津波予報」は津波による被害が予想されない時に、気象庁から発表される情報です。

※平成19年12月1日に改正された気象業務法にて、緊急地震速報は「警報」を含む情報に位置づけられました。また、気象庁は平成25年8月30日から、大津波警報を「特別警報」に位置づけて運用しています。



「緊急地震速報」には迅速に現場が必要とする情報が得られる「高度利用者向け緊急地震速報」と、テレビ・ラジオ放送や携帯電話などでの通報に利用されている「一般向け緊急地震速報」の2種類があります。

高度利用者向け緊急地震速報※1

緊急地震速報は1つの地震であっても、時間の経過とともに次々と更新された緊急地震速報が配信されます。

地震が発生したことをいち早く伝えるだけでなく、通報装置が設置されている場所に、何秒後に、どの程度の大きさの揺れ（震度階級）が到達するのかを予測し、具体的にお知らせすることができます（※）。

※緊急地震速報を利用し、弊社製品が気象庁により定められた演算方式を使用して、お客様ご指定の地点における地震の揺れの大きさ等をお知らせします。

一般向け緊急地震速報※2

2か所以上の地震計観測データから、日本国内のどこかに震度5弱以上の揺れが到達し、甚大な被害が予想される場合に配信されます。

NHK等のテレビ・ラジオや携帯電話等で広く一般に通報するために利用される警報情報です。

高度利用者向け緊急地震速報とは異なり、自分がいる場所に、何秒後（猶予時間）にどの程度の大きさの揺れが来るかは分かりません。

※1 緊急地震速報は「予報」と「警報」に区別されます。高度利用者向け緊急地震速報は「緊急地震速報（予報）」と表記されることがありますが、「緊急地震速報（警報）」も扱うことができるため、「予報」「警報」の両方を活用することができます。

※2 緊急地震速報（警報）のみを取り扱います。また、一般への通報基準は放送局や携帯電話会社などに委ねられています。

津波警報・注意報

津波による災害の発生が予想される場合に、地震が発生してから約3分以内（※）を目標に津波警報（大津波、津波）または津波注意報として発表されます。

※日本近海で発生し、緊急地震速報の技術によって精度の良い震源位置やマグニチュードが迅速に求められた一部の地震は2分以内。

津波予報

地震発生後、津波による災害が予想されない場合、または既に発表された津波による被害が予想されなくなった場合には津波予報が発表されます。

種類	高さ	発表基準と内容
大津波警報	10m超(10m<予想高さ)	予想される津波の高さが、3mを超える場合に発表されます。発表される波の高さは3段階に分けて表現されます。
津波警報	10m(5m<予想高さ≦10m) 5m(3m<予想高さ≦5m)	
津波注意報	3m(1m<予想高さ≦3m)	予想される津波の高さが1mを超え、3m以下の場合に発表されます。
津波予報	1m(0.2m<予想高さ≦1m)	予想される津波の高さが0.2mを超え、1m以下の場合に発表されます。
津波警報	0.2m未満	津波の発生が予想されないとき、0.2m未満の海面変動が予想されたとき、または津波注意報解除後も海面変動が継続するときに発表されます。

SignalNow Liteは気象庁防災情報の「高度利用者向け緊急地震速報」「津波警報・注意報」「津波予報」を利用しています。

※緊急地震速報は震源地の近くでは通報が間に合わないなど、技術的な限界があります。緊急地震速報や津波警報・注意報などのより詳細な説明については気象庁のホームページをご参照下さい。
緊急地震速報 : <http://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/index.html>
津波警報・注意報 : <http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/joho/tsunamiinfo.html>

SignalNow Liteの特徴

■SignalNow Liteの3つの特徴



※ SignalNow Lite の写真 / 画像は S945D 型を使用しています。

1. All In One

- 24時間365日、無停止稼働
ディスクレス、低消費電力（最大21W）
- 外部機器との連動
音声入出力端子（地震・津波情報優先出力）
音声遅延出力（放送機器連動時の頭切れ解消）
リレー接点3系統
SNMP 信号出力 などを標準装備

2. Flexibility

- 豊富な機能を自由にカスタマイズ
リレー制御時間、訓練報、定時チャイムなど活用シーンに併せて変更可能
- 通報内容の変更が可能
音声通報タイプの選択、音声データの入れ替え（外国語への対応）にも対応
- セキュアネットワークにも簡単接続
Proxy ネットワーク環境にも対応、通信はVPN 接続によりセキュリティを確保

3. Good Management

- 自動切断監視
配信サーバーとの接続が約5分以上切断したことを検知したら「切断通知」を、再接続が確認できたら「接続通知」をメールで連絡
- 受信・通報履歴
Web 画面より取得可能
- ソフトウェア自動更新
最新版のソフトウェアをリモートインストール



製品には通報装置の設置を示すステッカーが付属しています。

■SignalNow Liteは3種類の通報機能をご利用いただけます。

1. 音声機能	・予測計算した到達する地震の震度、津波の大きさを音声出力。 ・地震と津波の到達を警報音や音声で出力。	・内蔵スピーカー出力 ・外部スピーカー出力
2. リレー制御	・無電圧接点信号（リレー接点）を利用し、機器を制御。	・リレー接点（3系統）
3. SNMP 制御	・同一 LAN 上の警報装置や表示装置を10台まで制御。	・SNMP 対応機器制御（オプション） ・デジタルサイネージ制御（オプション）

導入事例

1. ビル管理

放送機器、エレベーター、パトランプ

2. 社内電話網

電話交換機、オフィス内電話機、応接室などの電話機

3. LAN

LAN 対応型パトランプ、メールサーバー、デジタルサイネージ

4. 無線機利用

無線機（親）、無線機（子）、放送機器

※ EM-K100 シリーズ、TCM-D204、TCP-D201 は JVCケンウッド社の製品です。